

- 1 主題名 ふるさとを思う心 (資料名「私の町」 光村図書)
- 2 ねらい 新潟県村上市の、郷土祭りや町並みなどに対する思いを考えることを通して、自分たちが住むふるさとのよさを継承することに努めようとする実践意欲を養う。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目C-(16)「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」を育成することをねらいとしている。

「郷土」とは、自分の生まれ育った土地ないし地理的環境のことである。また、郷土とは文化的な面を含んでおり、人はその土地で育てられてきたことに伴う精神的なつながりをもって生きている。生徒にとって地域社会は、家庭や学校とともに重要な生活の場であり、このふるさとを守るためには、郷土によって育まれてきた伝統と文化に触れ、そのよさに気付き、郷土に対する誇りや愛着をもつことが必要だと考える。また、中学生の段階では、自我の確立を強く意識するあまり、自分が自分だけで存在していると考えがちであるが、家族や社会に尽くした先人や高齢者などの先達によって自分が支えられて生きていることを自覚し、それらの人々への尊敬と感謝の気持ちを深めることは極めて大切なことである。さらに、美郷町では少子高齢化及び過疎化が進んでおり、中学卒業後には進学のため、皆が美郷町を離れることになる。離れた後も郷土に対する誇りや愛着の気持ちを保つために、地域を支えてきた先人や高齢者などの先達のおかげで、今のこの暮らしを営むことができているのだと認識することにより、尊敬の念や感謝の気持ちを深め、今後は自分たちの力で、地域に住む人々とともに、地域社会のよさを継承し、よりよいものに発展させていこうとする自覚をもつことは大変意義深いことである。

(2) 生徒について

本校は幼小中一貫校である。本学級の生徒は、小学時に美郷町の自然環境や歴史、産業について学習し、中学生になってからは、主に総合的な学習の時間で、美郷町の現状を知り、課題を見つけ、解決方法を探る学習に取り組んできた。今年度の7月には、少子高齢化と人口減少が進む美郷町を守るために、自分たちにできることを考え、修学旅行での活動の一環として、大阪の商店街で、美郷町のPR活動を行い、特産品や手作りのパンフレットを配布した。PR活動をすることで得られた課題に向き合い、さらに探究学習を進めている。しかし、卒業後は美郷町を離れ、美郷町外で就職をしようと考えている生徒がほとんどである。そのため、地域の課題を理解し、このままの状況ではいけないと考えてはいるものの、他人事な部分もある。

道徳の時間では、それぞれが自分の考えをもつことができおり、意見交換をする場面でも、相手の考えを尊重しながら進めることができている。しかし、人数が少ないため、ねらいとする道徳的価値に対する考えが深まらないことも多く、実勢意欲と態度を育成するところまでは至っていない。

(3) 資料について

ふるさとのよさに改めて気づき、継承しようとする実践意欲と態度を養うために、読み物資料「私の町」(光村図書)を取り上げる。主人公の「私」が住む新潟県村上市には「村上大祭」があり、少子高齢化による人手不足も協力して乗り越えている。「私」は古い町屋に住んでいることが不満であったが、観光客に認められて、誇らしく思うことができたという内容である。美郷町と同じような状況にある新潟県村上市を題材にした読み物資料を扱うことで、ふるさとに対する複雑な気持ちに迫ったり、客観的にふるさとのよさを見つめたりすることができるようになると思う。

(4) 指導について

導入の段階においては、自分たちの住む美郷町の特色や地域行事について考え、ふるさとのよさについて想起することができるようにし、学習への動機づけとする。

展開前段では、読み物資料「私の町」から、古い町屋が不満だった「私」が、観光客に声をかけられた後、家の中の梁と柱がいつもと違って見えた理由を考えることで、自分では気付かないふるさとのよさに気付く

ことができるようにする。

展開後段では、「便利で住みやすい町になってほしい」と言う友達の言葉をもとに、自分に置き換えて、自分だったら「昔ながらの町並みの場所」と「都会的な町並みの場所」のどちらに住みたいか、自分の考えはどちらに近いのかを、スケールチャートを用いて考えることで、ふるさとに対する思いについて考えることができるようにする。また、一人一人の意見を聞き、それに対してどのように考えるか、互いに意見を述べる時間を十分に設け、ねらいとする道徳的価値に対する考えを深めることができるようにする。

終末の段階では、地域に根付くものやことに焦点を当て、その背景にある地域の人々の思いから、ふるさとを思う心について迫りたい。ふるさとのために自分たちに何ができるかという具体的な取組について考えさせるのではなく、ふるさとのよさを継承していくためには、どのような思いが大切なのかという視点から迫るようにしたい。また、最後には美郷町に住む人々のインタビュー映像を見て、地域を支えてきた先人や高齢者などの先達のおかげで、今のこの暮らしを営むことができているのだと認識し、尊敬の念や感謝の気持ちを深め、今後は自分たちの力で、地域に住む人々とともに、地域社会をよりよいものに発展させていこうという気持ちを高めていけるようにする。

4 事前・事後指導

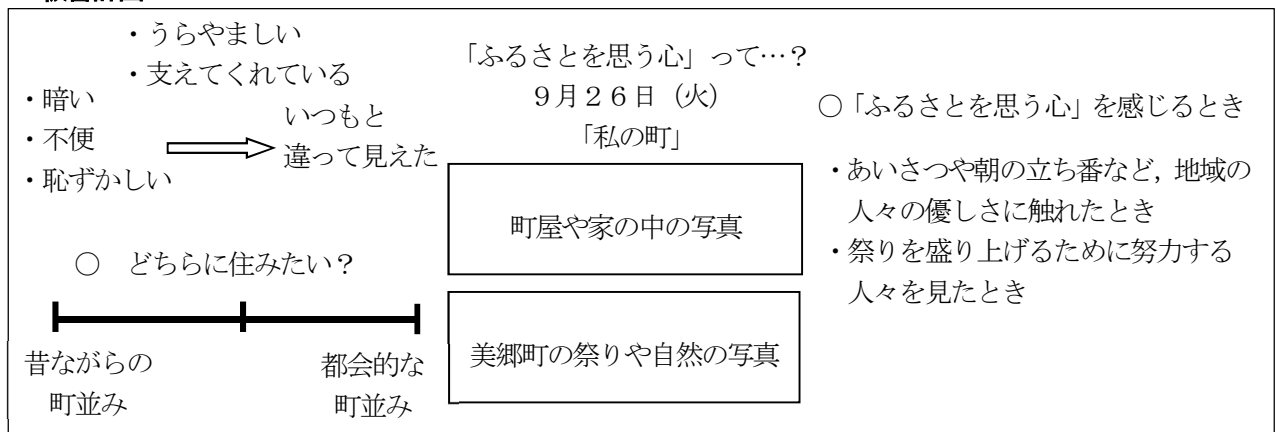
事前指導	総合的な学習の時間において、修学旅行で取り組んだ美郷町のPR活動で得られた成果や課題についてまとめたり、解決策を考えたりする学習をすることを通して、今後美郷町を守るためには、新たにどのような活動をする必要があるか主体的に考えることができるようにする。
事後指導	本時の学習を踏まえて、総合的な学習の時間において、美郷町を守るために自分たちにできる新たな活動を役場に提案したり、実践したりする活動をすることを通して、ふるさとのよさを継承しようとする実践意欲を行動に移すことができるようにする。

5 学習指導過程

過程	学習活動及び学習内容	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 修学旅行で行ったPR活動から、自分たちの住む地域について考える。 ○美郷町の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・人があたたかい ・祭りが盛り上がる ・自然が美しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの住む地域のよさについて考えさせることで、ねらいとする価値への方向付けを図るようにする。 ○ 村上大祭の映像資料を見せることで、扱う資料のイメージをもちやすくする。
展開前段	2 資料「私の町」に登場する村上大祭のニュースを視聴する。 ○ 学習のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ふるさとを思う心について考えよう。</div>		
	3 資料「私の町」を読んで考え、話し合う。 ○ 観光客に声をかけられた後、家の中の梁と柱が「私」にはいつもと違って見えた理由	<ul style="list-style-type: none"> ・古臭いと思っていたものが、価値のあるものなのだと思えたから。 ・自分が恥ずかしいと思っていた町屋が、観光客にとっては羨ましいことなのだと気付いたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外見の写真に合わせて内部の写真を提示することで、家の中の梁や柱の様子が理解できるようにする。 ○ 家の中の梁と柱がいつもと違って見えた理由を考えさせることで、自分

<p>展開 後段</p>	<p>4 スケールチャートを用いて、自分ならどんな町並みの場所に住みたいか、理由もあわせて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昔ながらの町並みの場所 ○ 都会的な町並みの場所 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔から、梁と柱が町屋を支えてくれていると感じられたから。 ・昔ながらの町並み →あたたかい感じがするから →落ち着くから ・都会的な町並み →買い物や交通の面で便利だから 	<p>では気付かないふるさとのよさがあることを理解できるようにする。</p> <p>○ スケールチャートを用いて、自分の立場がどの位置にあるのかを明確にして意見交換をさせることで、様々な考えに触れ、多面的・多角的に考えることができるようにする。</p>
<p>終末</p>	<p>5 話し合ったことや、自分たちの生活を踏まえて、ふるさとを思う心について考える。</p> <p>◎ 自分たちの住む町で、「ふるさとを思う心」を感じる時</p> <p>6 美郷町に住む人々の思いをまとめたインタビュー映像を視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の優しさに触れたとき ・祭りを盛り上げる人々を見たとき 	<p>○ 日常生活の様々な瞬間に焦点を当てることで、その背景にある地域の人々の思いに迫り、ふるさとを思う心について考えることができるようにする。</p> <p>○ 地域の人々のリアルな声を聴くことで、ふるさとを思う気持ちを深めることができるようにする。</p>

6 板書計画



7 評価規準

- 村上大祭の「おしゃぎり」や町屋に対する「私」の思いから、ふるさとについて考え、ふるさとのよさを継承しようとしているか。